

□海外文献紹介□

Late onset hypogammaglobulinemia (LOH) 患者におけるガストリン分泌の減少

Decreased gastrin secretion in patients with late-onset hypogammaglobulinemia: *Gijsbert den Hartag, et al* (N Engl J Med 318: 1563-1567, 1988)

胃癌発生のリスクが非常に高いことが知られている LOH ではボンベシン刺激または食餌刺激に対するガストリンの分泌反応が低下している。LOH 18 名, LOH 以外の低ガンマグロブリン血症 (低 G 症) 21 名 (X-linked 無 G 症 10 名, early onset 低 G 症 5 名, 悪性リンパ腫による低 G 症 6 名) および正常対照群 30 名において, ① 合成ボンベシン 60 pmol/kg を 20 分間点滴静注し 5 分前より 5 分間隔で採血, ② 標準試験食を投与し 15 分間隔で採血し,

血漿ガストリン濃度を測定した。

結果: LOH の 18 名中 6 名 (33%) ではボンベシン投与前の基礎ガストリン値が低下していたが, LOH 以外の低 G 症では低下はなかった ($p < 0.05$)。ボンベシンならびに食餌刺激により全例でガストリン分泌量の増加が認められた。その程度はボンベシン刺激の場合 LOH の 18 名中 13 名 (72%) で正常対照例より低下していたのに, 他の低 G 症では低下していなかった ($p < 0.05$)。また食餌刺激後のそれは LOH の 14 名中 6 名 (43%), 他の低 G 症 18 名中 1 名 (6%) で低下していた。ガストリン分泌量の基礎値に対する増加量は, 他の低 G 症 21 例と比較して LOH ではボンベシン刺激において 72% で低下 ($p < 0.05$)。食餌刺激において 29% で低下していた (p : NS)。LOH におけるガストリン分泌の低下は年齢・性・病悩期間とは

無関係であった。

考察: ボンベシンおよび食餌刺激に対するガストリン分泌反応の低下は LOH 患者に限られ, 他の低 G 症患者では認められなかった。ボンベシンに対する反応を指標とすると, 感度 72%, 特異性 100% で LOH を他の低 G 症と区別でき, 食餌刺激 (それぞれ 43%, 94%) よりも優れていた。これにより胃癌のハイリスク群である LOH を選び出すことが可能となろう。ボンベシンは主として前庭部の G 細胞を刺激するとされるが, 上記の差が G 細胞の感度の低下によるのか数の減少によるのかは不明である。また LOH 中のガストリン分泌反応低下群と正常群が別疾患か否かは更に大規模な比較研究を要する。

(関東通信病院消化器内科

土谷春仁 抄)